

竹原市教育委員会表彰

◇ 竹原市教育貢献賞

本市教育の充実を図る取組により成果を上げた個人及び団体を、竹原市教育委員会が表彰するものです。

年度	氏名・団体名	功績等
令和元年度	読み語りボランティア「きらきら」	6年前、吉名の子供たちを本好きな子供にしたいという願いをもった吉名小学校保護者 OG 7 人で結成された団体で、「吉名の子供たちのために」を合言葉とし、発足当時からほぼ同じメンバーで継続して活動をしてきた。 吉名学園において、毎月第3水曜日に、8時10分から8時30分の20分間、読み読みの取組を6年間継続して行ってきた。 また、子供たちが季節感を感じることができるよう、図書館入り口に手作りのタペストリーを飾ったり、季節にあった本の紹介するなど図書館の環境整備をボランティアで行っている。
令和2年度	坂元 静馬	毎年、中通小学校において、紙をすき、手作りの和紙を作成する指導を行っている。 たけのこの皮を煮込んで作成した和紙は、卒業証書授与式に手渡される世界に一つだけの自分の手作りの卒業証書として使われるとともに、木槌で竹の先を叩いて「竹筆」を作り、その筆で一人一人が夢や大切にしている言葉を書き、大きな寄せ書きにする活動も行っている。 こうした活動を23年間継続しており、今では中通小学校の伝統となっている。 また、6学年の総合的な学習の時間「大好き！わたしたちの町竹原」の一つとして教育課程に位置づけ、児童の資質・能力の育成を目指す取組となっている。
	竹原西小学校区安全対策連絡協議会	竹原西小学校PTA会長を会長とし、子ども安全パトロール協力員及び子ども110番の家協力員により、児童の見守り活動を継続的に行ってきた。 登下校時を中心として通学路に立っての見守り活動や、自家用車にステッカーをつけてのパトロール活動、児童の緊急避難場所としての見守り活動などを日常的、継続的にしている。 また、散歩や掃除、買い物等で校区内におられる時にも、ボランティアの方が児童を見守るなど、常日頃から家庭・学校・地域が一体となって子供たちの安全を守り健全な育成を図っている。

令和3年度	清田 英機	10年以上前から、東野小学校の総合的な学習の時間などにおいて、特に米づくりなどの技術的な指導等を熱心に行っている。 今年度は、今までの米作りの指導を継続しながら休耕田を耕作し、児童が野菜や花などを地域の方と一緒に栽培できる畑をつくった。 こうした生活科や総合的な学習の時間における活動において、長年指導を継続されるとともに、60年以上に及ぶ米作りでの様々な体験等を話してくださるなど、キャリア教育の視点からも児童の職業観や勤労観の育成に大きな影響を与えている。 また、地域の歴史や出来事等もよく話され、児童が地域への誇り等をいただくことにもつながっている。
令和4年度	殿畠 裕子	中通小学校において、11年に渡り第6学年児童に箏の演奏を教えている。 演奏技術のみならず、箏の歴史や伝統芸能の素晴らしさ、伝統芸能を受け継ぐ演奏者としての生き方等、児童が国の伝統について考えを深めることに対して多大な貢献をされている。
	読み語りボランティア「わくわくクラブ」	平成13年度に荘野小学校での読み聞かせを行うボランティア組織として発足し、以来21年間に渡って小学生への絵本の読み聞かせ活動を継続している。 週1回朝会の時間に、ボランティアメンバー各自が選んだ絵本を持参し、各教室で読み聞かせを行っている。この活動は児童の読書活動推進に大いに貢献されている。
	梶村 泰志	10年以上に渡り地域の見守り隊として旧忠海西小学校、忠海学園の児童生徒の登下校時の安全確保に尽力していただいている。 特に、忠海学園が開校してからは通学路の大変狭く、一般車両の多い、児童生徒にとって危険な場所に立たれ見守りを続けられている。 長年に渡るこれらの実績は、児童生徒の安全確保の観点からも多大な貢献をされている。
令和5年度	安田 満子	平成22年度から毎月実施するクラブ活動において、ボランティアで華道の指導を行った。 児童が季節ごとの花を花器に生けたり、アレンジメントを楽しんだりする中で、子供の自由な発想を大切にしつつ、伝統や文化についても考えを深められるように温かく指導を行った。
	横川 富枝	平成16年頃から本年まで20年間近くに渡り生け花クラブにおいて、毎年10回程度の指導を継続的に行ってきた。 花の生け方について、児童が主体的に活動できるように配慮し、自由に生けさせた後で褒めながらアドバイスをするなど、児童の感性や創造性を大切にした指導を行った。

令和5年度	清本 美穂	10年以上に渡り、東野地域交流センター所長を務め、子供たちの成長に大いに貢献された。 東野アドベンチャー（地域探検）では、地域巡りコースと一緒に考え、参加される地域の方との連携を積極的に図るなど、地域と学校をつなぎ、子供たちの学びのために熱心に取り組んだ。
令和6年度	坂口 清秀	平成22年度から今日に至るまで、交通安全ボランティアとして、大乘小学校児童の登下校の様子の見守り活動を行っている。 毎朝、学校近くの交差点において、児童が安全に登校できるよう一人一人に声を掛けながら見守ったり、下校時にも見守り活動を行ったりすることで、児童が安心安全に登下校できる環境づくりに寄与されている。
	原田 千鳥	平成13年度から平成26年度まで、大乘地域交流センターの所長として「こども講座」を開設し、学校外での教育活動に継続して取り組んだ。 また、「大乘地区協働のまちづくりネットワーク」の事務局、大乘小学校学校運営協議会委員として、コミュニティ・スクールの推進に尽力した。
	読み語りボランティア「パンダサークル」	パンダサークルは、これまで21年間にわたり竹原小学校で絵本の読み読みのボランティアとして、絵本の読み語りや子ども読書のイベント等を通して児童が楽しい絵本の世界を味わうことができるように活動が続けている。 また、読み読みの活動以外にも学校図書館の環境整備に携わり、児童の豊かな心の育成や学習環境の充実に貢献してきた。
令和7年度	國兼 千代美	荘野地域交流センターにおいて主事、センター長を歴任し、荘野地域社会福祉協議会会長や学校運営協議会会長、副会長として地域から児童の学びを支援している。 荘野地域に約25年前から伝わる木村城太鼓では、太鼓の指導者として17年間、児童の指導に当たっている。 平成27年には、当時の荘野小学校6年生児童と協力して作詞し、「ここは、荘野」を作られた。平成13年度からは、児童がもっと図書に親しめるよう、ボランティア活動として、絵本の読み聞かせクラブ「わくわくクラブ」を立ち上げ、定期的に児童に絵本のすばらしさを伝えてこられた。
	大乘地区協働のまちづくりネットワーク	平成23年から14年間にわたり、安心、安全なまちづくりを目指し、大乘駅や大乘小学校の正門で挨拶活動や、4年生を対象にした持続可能な環境について考える学習、地域を歩いて清掃活動を継続的に行ってきた。 また、低学年との「干し柿づくり」「芋ほり」活動や「壁画制作」に継続的に取り組まれている。

令和7年度	神明づくり継承委員会	20年以上にわたり、地域の伝統文化の継承や竹原小学校の学校行事の運営に貢献してきた。竹原小の神明の作り方を次代に引き継いでいくため、PTAのOBが継承委員会のメンバーとしてリーダーシップをとり、竹小まつりの神明づくりを継承してきた。 材料の切りだし等の事前準備から竹小まつり当日の神明づくりに至るまで、現役PTAや学校職員と連携しながら学校教育活動に貢献している。
令和8年度	竹原小学校安全見守り隊	20年以上にわたり、竹原小学校の児童の登下校を見守り、挨拶をして児童に声かけをしてきた。ボランティアの自宅近くの登校班と一緒に歩いて学校まで行ったり、学校近くの信号機のそばで児童の横断を見守ったりしている。 大乘小学校が統合された今年度は、毎朝、大乘の登校班が到着する新港橋バス停から竹原小学校までの登校を、地元登校班の児童と一緒に見守っている。